明日の業界を担う人材を育成

観光関連の大学・専門学校

東京YMCA国際ホテル専門学校

日本初のホテル専門学校

今年、創立90周年を迎える東京YMCA国際ホテル専門学校（東京都新宿区）は、「日本初のホテルに特化した専門学校」として、観光立国の実現に貢献している。

今日まで1万2千人を超える卒業生を輩出し、総支配人からサービススタッフ、また旅館の後継者、経営者と、あらゆるステージで活躍している。

1972年に始まった1年制の「ホテル専攻科」を「ホテル旅館経営学科」にリニューアル（2017年度）。「宿泊施設の後継者が集まるという点では国内唯一の学科で、旅館・ホテルの後継者・経営者育成の環境強化が主な目的」と校長の小畑貴裕氏。

小畑校長自らが講師を務めるワーク形式授業の「SDGs理解講座」

経営者に最も必要なことは「旗振り」で、自身が正しいと思う決断をし、社員に方向性を示すことが求められる。

「そのため、カリキュラムには、マネジメントを皮切りに、マーケティングやアカウンティングを基盤とし、管理理論と実践的なものに特化した講義をラインアップした点が最大の特徴」と小畑氏。

特別授業として、宿泊業界に特化したビジネススクール「宿屋大学」が主催する講座に通年、社会人に混ざり参加。日本の宿泊業界をけん引する著名なキーパーソンの講師や受講者とのつながりも生まれ、「YMCAネットワークが最大の財産で、人脈づくりにも貢献している」と力説する。

対して2年制の「ホテル科」はおもてなしのプロを追求している点が特徴で、実際のホテルでの授業で実践スキルを磨くべく、6カ月間のホテル実習で自身の可能性を広げるという。

1年次の夏期休暇にリゾートホテル実習の参加も可能で、これらの企業での実習が即戦力となる人材の輩出につながっているという。

また、同校では今後、業界の抱える慢性的な人手不足の解消にも取り組むべく、留学生の受け入れにも注力し、真のホテリエを育てる覚悟だ。

先人たちが守ってきた歴史と伝統を引き継ぎ、次世代のリーダーとしての自信を深める場として、この学校は存在し、「次代を担う人材を輩出することがYMCAの大きな使命」と語る。

専門学校日本ホテルスクール

礼節を重んずる人間育成

日本で唯一ホテルが作った学校として確固たる地位を築く学校法人日本ホテル学院が運営する専門学校日本ホテルスクール（東京都中野区）は、今年設立から54年を迎えた。同校の教育理念は、「礼と節を重んずる人間の育成」「理論と実技の一体化によるサービスの創造」―などが挙げられる。

卒業生は今日までに1万4千人を超え、ホテル・ブライダル・レストラン業界で幅広く活躍し、日本のサービス業の一翼を担い続けている。

一昨年8月に竣工した新校舎「宴会場」

今年3月の卒業生の就職状況は、日本全国のホテル・旅館などに採用され、就職希望者全員の進路が確定した。「昨今の業界が抱える慢性的な人材不足に伴い、企業の求人ニーズは高止まり状態。就職決定者の95%が、2年間の学びを通してホスピタリティ業界に進んだ」と同校。

また、2023年夏に新校舎を竣工し、ホテルフロントシステムの新規導入や拡張された演習会場で模擬披露宴を実施するなど教育の充実化を図っている。

開校以降、「産学連携」を軸として教育カリキュラムを組み立て、ホテル・ブライダルを中心に、企業と連携した実践教育を行う。当初から企業実習（インターンシップ）を導入した独自の教育プログラムにより、現場で活躍できるホテリエを育ててきた。「現場で活躍できる人材を育てるには、理論と実技を一体化させることが重要」と力説する。

また、昨年4月からは、昨今のSNSプロモーションなどが重要視されていることを契機に、「表現して伝える力」を持った次世代のホテリエの育成を目指す「ホテルSNSコミュニケーション科（昼間部）」を新設。ホテルのサービス全般に加えて、独自のカリキュラムとしてSNSのオペレーションやマーケティングを設けて、「コミュニケーションツールをホテルのマーケティングや広報に生かす力を養うことが目標」と話す。

観光は明日の日本を支える重要な産業といわれ、今後さらなる成長が見込まれるが、その成長を確かなものにするには優秀な人材の確保が必要不可欠だ。ここでは観光に関わる充実した教育環境を誇る大学、専門学校9校を取り上げた。

江戸川大学

教育理念は「人間陶冶」

江戸川大学は千葉県流山市の駒木キャンパスで観光教育を行っている。流山おおたかの森駅（つくばエクスプレス・東武アーバンパークライン）から無料スクールバスで6分、徒歩だと18分の便利な場所に立地している。

江戸川大学外観

同大のルーツは1931年設立の城東高等家政女学校。「教養ある堅実な女性の育成」を教育理念とし、その指針として「誠実」「明朗」「喜働（きどう）」の三つを掲げた。現在、学校法人江戸川学園は、1990年に開学した江戸川大学をはじめ小・中・高・専門学校の計7校で、約7千人の学生、生徒、児童が学ぶ総合学園となっている。

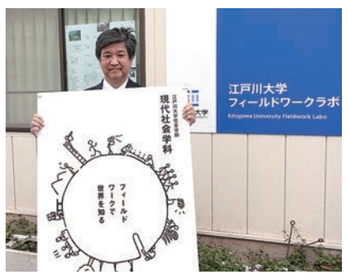
江戸川大学としての教育理念は「人間としての優しさに満ち、普遍的な教養と時代が求める専門性により社会貢献できる人材の育成」。つまり「人間陶冶」を掲げている。「情報力を磨き、国際力を育てる」ため、同大学では開学以来、学生全員にノートパソコンを無償貸与。ハイレベルな留学を支援する奨学制度「グローバル・スタディ・プログラム」も整う。同プログラムは、「入学時英検2級以上で初年次学費35万円減免＋夏季海外研修費用免除」「留学費用約300万円を大学が全額支給」「帰国後の学費55万円減免」と極めて手厚い。

同大は、社会学部（現代社会学科、人間心理学科、経営社会学科）とメディアコミュニケーション学部（マス・コミュニケーション学科、情報文化学科、こどもコミュニケーション学科）の2学部6学科制。観光教育は社会学部現代社会学科（定員80人）が担っている。

同学科は「観光学ゼミナール」「テーマパーク・観光まちづくり学ゼミナール」「文化人類学ゼミナール」「民俗学ゼミナール」「環境学ゼミナール（くらしと地球環境）」「環境学ゼミナール（自然共生社会）」「博物館学・文化遺産学ゼミナール」「食文化・レジャー学ゼミナール」「スポーツ社会学ゼミナール（競技）」「スポーツ社会学ゼミナール（公共）」の10ゼミナールを10人の教員が担当している。

観光学ゼミナールを担当する学科長の崎本武志教授は「現代社会学科の10ゼミナールは全て『観光』というキーワードでつながっています」と話す。同教授はJTBの出身。日本国際観光学会の会長、鉄旅オブザイヤーの審査委員も務めている。

「社会学部現代社会学科では、社会学を基盤にした基礎的な知識とフィールドワークの調査手法を身につけ、多様な研究領域から社会の課題解決にアプローチ。『現場で学び、問題に切り込んで常識を疑い、解決策を提示する』という一連の流れを重視しています。『文化』『観光』『環境』『スポーツ』の四つのフィールドから現代社会を捉える力を養うとともに、実際に現地を訪れて調査研究を行う『フィールドワーク』で、調査力、発見力、考察力、マネジメント力、解決力を身に付けます。3年次からは10の研究領域から興味関心にあったゼミナールを選択し、自身の研究テーマを探求していただきます」（崎本教授）。



崎本教授

この4月には新施設「フィールドワークラボ」を開設。フィールドワーク専門の常設教室として、フィールドワークの準備、研究、発表と展示を行っている。フィールドワークの成果を学生たちが相互に確認しあえる施設となっている。

各ゼミナールでの取り組みはユニークだ。

観光学ゼミナールのフィールドワークでは、JR東日本の柏駅と連携して、JRの駅を基点に周辺地域の魅力を楽しむイベント「駅からハイキング」に参画。スタッフとして参加し、当日の受付、スマホアプリの利用方法の案内なども行い、ホスピタリティを実践で学ぶ場ともなっている。

「テーマパーク・観光まちづくり学ゼミナール」は大塚良治教授が担当。「まちでのフィールドワークを通して、地域活性化に対する理解を深めています。受講生には地域活性化策を作成してもらい、行政などへの提案につなげています。ゼミナールでの学びが地域課題の解決に結びつくよう努めています」（大塚教授）。

土屋薫教授は「食文化・レジャー学ゼミナール」を担当。「グローバリゼーションに伴うマクロな視点だけでなく、個人のライフスタイルに関わるミクロな視点からも、食の問題に焦点を当てようとするものです」と同ゼミの特色を話す。

野上玲子講師担当の「スポーツ社会学ゼミナール（公共）」では、サッカーやラグビーなどのプロスポーツの現場へ行き、ボランティア活動を通じてスポーツと社会とのつながりをテーマとしたフィールドワークを行っている。

文化人類学ゼミナール（川瀬由高准教授）では台湾に、環境学ゼミナール（中島慶二教授・奥山正樹教授）では上高地にそれぞれフィールドワークに行き、学生からも好評を博している。

同学科の卒業生の就職先は、エイチ・アイ・エス、クラブツーリズム、イオンコンパス、リゾートトラスト、東横イン、日光・鬼怒川リゾート鬼怒川温泉山楽、稲取赤尾ホテル、伊東園ホテルズ、休暇村協会、グリーンホスピタリティーマネジメント、東京エアポートレストラン、ジャルロイヤルケータリング、JR北海道、秩父鉄道、東急バス、リムジン・パッセンジャーサービスなど。観光・観光関連業界へ確実に人材を輩出している。

特集
11～13面

江戸川大学
EDOGAWA UNIVERSITY

フィールドワークで世界を知る

社会学部現代社会学科

観光に関わる
10領域の学び
- 観光学ゼミナール
- テーマパーク・観光まちづくり学ゼミナール
- 文化人類学ゼミナール
- 民俗学ゼミナール
- 博物館学・文化遺産学ゼミナール
- 食文化・レジャー学ゼミナール
- 環境学ゼミナール（くらしと地球環境）
- 環境学ゼミナール（自然共生社会）
- スポーツ社会学ゼミナール（競技）
- スポーツ社会学ゼミナール（公共）

現代社会学科ではフィールド先からの実況中継を行います

観光学ゼミでは、インバウンド観光を支える成田国際空港へ。同空港の施設や歴史について学び、国際観光・国際空港のあり方を考える機会に。
撮影協力：Narita Airport

環境学ゼミ（自然共生社会）では、中部山岳国立公園の一部をなす上高地を視察。穂高連峰などを望む山岳景勝地として知られ、人気の観光地でもある。

入試アドバイザーが対応
入試相談会
※予約が取れた時間にご参加ください
9/20（土）　10/25（土）
各日9:00～17:00
個別相談　キャンパス案内
N棟（受付）

学部・学科の学びやキャンパスライフの魅力がわかる多彩なメニューを体験
オープンキャンパス
※事前申込制
7/12（土）　8/2（土）　8/23（土）
8/24（日）　9/6（土）　2026年 3/21（土）
各日 午前の部 9:30～/ 午後の部13:00～
- 大学・概要説明
- 学部学科の展示コーナー
- キャンパスツアー
- 学食体験
- 個別相談コーナー（入試・就職・奨学金など）
- フィールド先からの実況中継

江戸川大学
EDOGAWA UNIVERSITY
〒270-0198 千葉県流山市駒木474
お問い合わせ先：入学課
0120-440-661　nyushi@edogawa-u.ac.jp
edodai.jp

1分で分かる！江戸川大学の学びの魅力を先生が解説！
LINE公式アカウント友だち登録！